



コバトン



平成31年度病害虫発生予察注意報第1号

平成31年4月23日
埼玉県病害虫防除所

ヒメトビウンカ越冬世代のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、2年連続で増加しており、一部では極めて高い値を示す地点も見られています。このため、イネ縞葉枯病の多発が懸念されます。

箱施用薬剤によるヒメトビウンカの防除を徹底しましょう。

作物名 水稻
病害虫名 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県平均で7.0%と、2年連続で増加した（図3）。また、調査地点の約7割で保毒虫率が5%を超え、一部では20%を超える極めて高い値を示す地点も見られた（表1）。
- (2) 3月25日に気象庁が発表した関東甲信地方の季節予報では、4月から6月までの平均気温については、高い確率が50%となっていることから、ヒメトビウンカの発生は助長されるものと予測する。



図1 ヒメトビウンカ雄成虫
(体長約3.5mm)



図2 イネ縞葉枯病発病株
(矢印：こより状の黄色く枯れた葉)

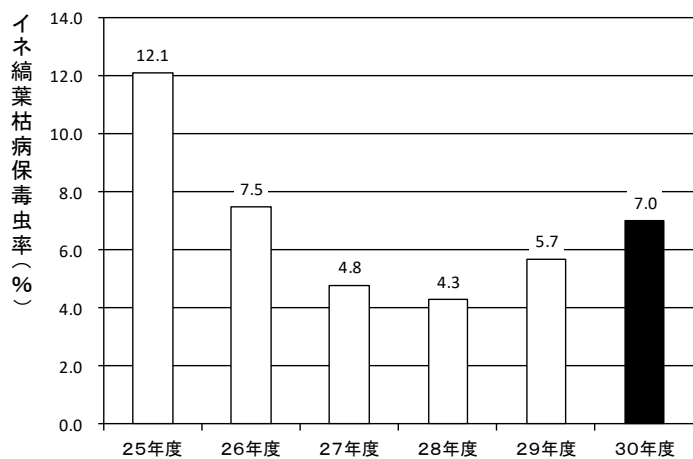


図3 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移

注) 保毒虫率は年度の11月～翌3月にサンプリングした越冬世代幼虫をELISA法で検定した

表1 イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (%)

地点名/年度	H28	H29	H30
さいたま市昭和	9.4	5.2	6.3
富士見市南畑	5.2	4.2	14.6
川越市古谷本郷	3.1	5.2	5.2
坂戸市紺屋(横沼付近)	7.3	4.2	13.5
坂戸市勝呂	8.3	4.7	8.3
吉見町久保田	3.4	0.0	6.3
小川町下横田	-	4.2	2.1
滑川町山田	-	-	2.1
川島町上八ツ林	-	3.7	4.2
秩父市小柱	4.6	12.3	3.1
本庄市吉田林	4.1	1.6	4.2
美里町関	3.1	5.9	8.3
上里町長浜	-	2.1	6.3
熊谷市中曽根	3.1	2.6	21.9
熊谷市樋春	4.1	4.2	4.2
熊谷市小泉	-	7.3	1.0
加須市不動岡	0.0	5.1	5.2
加須市大越	-	10.4	9.4
加須市麦倉	-	10.5	13.3
行田市前谷(移植)	-	2.1	2.4
白岡市野牛	13.0	10.4	5.2
久喜市三箇	3.1	10.0	11.1
幸手市平野	-	9.4	11.3
春日部市樋籠	-	10.6	7.3

3 防除対策

- (1) イネ縞葉枯病は、発病後の防除はできないため、感受性品種（「コシヒカリ」「キヌヒカリ」など）を作付ける場合は、必ず箱施用薬剤でヒメトビウンカの初期防除を実施する（表2）。
- (2) 育苗期間中は、寒冷紗などで被覆し、ヒメトビウンカの侵入を防ぐとともに、被覆を外した後はすぐに箱施用薬剤を散布する。
- (3) 箱施用薬剤を使用しなかった場合は、必ず本田防除を実施する。
- (4) 通年で水田周辺のイネ科雑草を防除し、ヒメトビウンカの密度を低減させる。
- (5) 縞葉枯病抵抗性品種（「彩のきずな」「彩のかがやき」など）を作付ける。

表2 ウンカ類の防除薬剤例（箱施用薬剤）

薬剤名	IRAC・FRAC コード	使用時期	使用 回数
防人箱粒剤	IRAC:28 IRAC:4E FRAC:P3	は種時(覆土前)～移植当日	1
ルーチンアドスピノ箱粒 剤	IRAC:4A IRAC:5 FRAC:P3	は種時(覆土前)～移植当日、 は種前	1
ツインターボフェルテラ 箱粒剤	IRAC:4A IRAC:28 FRAC:P3	は種時(覆土前)～移植当日	1

(使用基準は平成31年4月23日現在)

4 問合わせ先

埼玉県病虫害防除所 電話：048-539-0661

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html?_mode=preview